佐渡市と入間市の全小中学校で、特産品を使用した交流給食が行われました

佐渡市と埼玉県入間市は、旧両津市時代の昭和61年10月12日に姉妹都市となり、昨年30周年を迎えました。12月９日㈮、30周年記念の一環として、未来を担う子どもたちにお互いの特産品を知ってもらおうと、両市の全小中学校64校で、交流給食（約16，５００食）が行われました。

佐和田地区の河原田小学校では、三浦市長も同席し、入間市の特産品を使用した給食を味わいました。同小学校では、給食時間の校内放送を利用して「入間市の歌」を流したり、入間市にちなんだクイズを出題したりと、姉妹都市交流を子どもたち自らが積極的に学ぼうとする姿勢が見られました。

また、姉妹都市交流をスタートさせた両津地区の両津小学校では、栄養士から両市の交流や特産品について説明がありました。地図で入間市の位置を確認し、埼玉県は海がない県と知り、関心が高まりました。そして、児童からは「入間市には海がないので、佐渡の海のものを送ることがわかった」という姉妹都市の連携に気付く声があがりました。

給食を食べ終えた児童は、「お茶の風味がタラと合っていた」「お肉がいつもと違って美味しかった」「30周年を迎えるなんてすごい。これからも姉妹都市でいたい」と話していました。

「ごちそうさまでした！」と、笑顔いっぱいの声は、入間市まで届いたと思います。

今後も食や文化の交流を通じて、お互いの魅力を感じてもらうことで、若い世代の皆さんに姉妹都市交流を知ってもらえるような取り組みを継続して行う予定です。

入間市の生産者の皆さん。たいへんありがとうございました。ごちそうさまでした！

お問い合わせ
市役所産業振興課
地産地消推進係
☎63―３７９１

おいしさで笑顔いっぱいの交流給食
河原田小学校

姉妹都市交流がスタートした両津地区（旧両津市）の両津小学校の給食時間の様子

両津小学校では地図で入間市の位置をみんなで確認しました

交流給食の「献立」について紹介します

佐渡市では、入間一番の特産品『狭山茶』を衣に入れた**たらの狭山茶揚げ**、入間ですくすく育った『入間豚』を**入間豚汁**に使用しました。また、埼玉県は、生糸を作るための繭生産や小松菜の栽培が盛んなため、春雨を生糸に見立て、小松菜を使った生糸あえを組み合わせました。

入間市では、約12，５００人の小中学生に佐渡市の特産品の『米』『米粉』『こんぶ』を使った**佐渡の昆布ごはん、いかのかりん揚げ**の給食を食べてもらいました。

姉妹都市の逸品

狭山茶は、埼玉県下全般で生産されているお茶の総称で、入間市が主な産地です。生産量も埼玉県の中で入間市が一番です。「色は静岡、香りは宇治よ、味は狭山でとどめさす」とうたわれる狭山茶は、製茶の最終工程で加熱する「狭山火入」という江戸時代からの伝統製法により、甘みのある深い味わいとなっています。皆さんもぜひ、姉妹都市の味を堪能してみてください。